

(仮称)厚生産業会館はいま急いで造るべき施設なのか 市議会建設企業常任委員会で強い慎重論

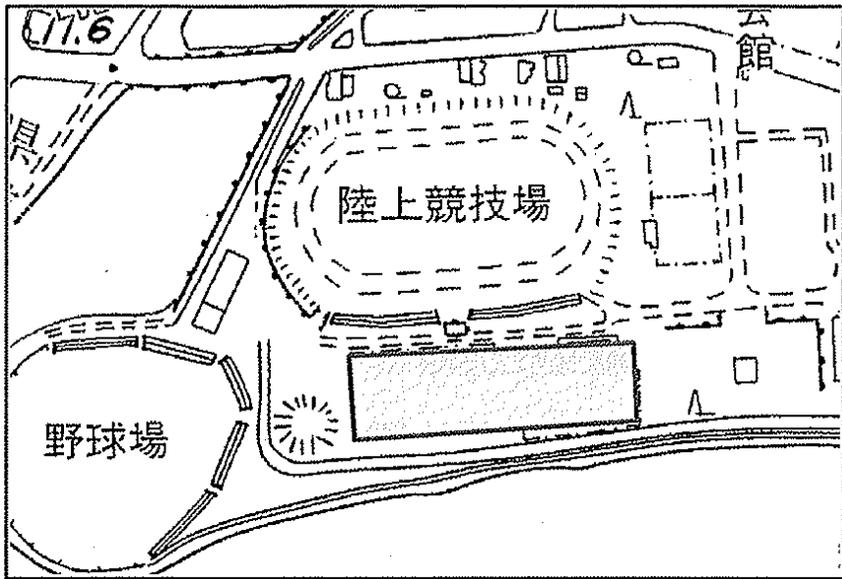
上越市は(仮称)厚生産業会館基本構想(案)をまとめ、11日の市議会建設企業常任委員会で明らかにしました。

このなかで市は、建設理由について、「市内のホール系施設の稼働率は非常に高く、季節によつては予約が取れない」「高田地区公民館が施設の老朽化していることなどを踏まえ、生涯学習の拠点となる施設の建設要望がある」と述べました。また、「市民活動の活性化や市内の地域内交流を促進するとともに、ひいては広域観光や中心市街地の活性化にもつなげることを目的とする」と説明しました。建設場所は、高田公園内のプール跡地(写真)で、敷地面積は約

9900㎡。概算建設費は約18億3000万円です。2014年度着工、その翌年度にはオープンを目指すとしています。

委員会での質疑の特徴は、もっと広く意見を聞くべきで、急ぐなという声が強く出されたことです。

櫻庭、本城両議員から「市民のニーズが本当に熟しているかと言えば、熟していない。いまの経済状況の中で、この施設が本当に必要なのかしっかりと話し合うべきだ。検討委員会では、建設(の是非)そのものについて検討しないできている」「13区の利用を本気で考えているなら、13区の地域協議会にも諮問すべきだ」「ま



写真は市が示した(仮称)厚生産業会館の建設予定地。下の図では、陸上競技場の下の長方形のところになります。

(建設場所をめぐり)陳情合戦が渦巻いている。今回の発表をする前に陳情者と話し合うステップを踏んでいるか。市民の中にはいろいろな声が出る。市民

の合意を得るために、建設時期については合併特例債の期限を考えて、先延ばしもいいのではないか」などといった発言が出されました。こうした意見、質問に対して市側は、「これまでいろいろな人の意見を聞きながら構想案をまとめてきた。今後は地域協議会に諮るほか、パブリックコメントを行い、幅広く意見を聞いていきたい。諮問する地域協議会は、あくまでも建設する場所の地域協議会に諮るというルールから、高田区ということになる」「陳情者とは、市長が直接会って、話し合うという丁寧な対応をしてきた。市として急いでいるつもりはまったくない。検討委員会から報告をもらって、2カ月をかけて市としての考えをまとめたい」と答えていました。



【ハクソカズラ】アカネ科で、つる性の多年草。漢字で「屁糞葛」と書きます。いったい誰がこんな名前をつけたのでしょうか。葉や茎を咲くと、悪臭が漂います。花自体は小さなかわいい花です。

質疑の中では、市の構想(案)で「中心市街地の活性化につながる」としている点について、滝沢一成議員などから「(高田公園内設置が)どうして中心市街地の活性化にむすびつくのかわからない」など市の説明を疑問視する声も相次ぎました。私は番外ですが「諮問する地域協議会は施設の建設地がある地域協議会がルールというのはおかしい。全区の地域協議会に諮問すべきだ」と主張しました。

一方、「行政対応が遅いといわれているなかで、よくここまでこぎつけた」「越後、上越の匠の技を活かした設計を」など賛成の声も2、3ありました。日本共産党議員団では、「市民のみなさんのご意見をお聴きする会」でのご意見を踏まえて平良木議員が一般質問に立ちます。

映画「あなたへ」を観終ったとき、観客はみんな心が優しくなったのではないだろうか。私の場合、妻が定年を迎えたら、早いうちに一緒に旅に行きたいと思いをした。悲しい思いを背負った旅ではなく、生きていくうちに楽しい思い出をつくる旅に。

先日、一日中いろいろな会議が続いて最後の会議が終わった後、どうしてもこの映画を観ておきたいと思い、映画館に駆けつけました。高倉健主演のこの映画は夜九時から最終上映でした。途中で眠くならなければいいがと心配したのですが、眠たくなるどころか、はじめから終わりまでずっと惹きつけられた映画でした。

季節外れの風鈴の音が悲しく響いている部屋。その一角にキク科の赤紫の花、たぶんアスターかノコンギクでしょう、これが小さな花瓶に入れられ、とてもいい感じに飾ってあります。そこには、亡き妻から送られた手紙を読む夫がいました。手紙には、「あなたへ。私の遺骨は故郷の海へ撒いてください」と書かれています。

友人らの心配をよそに妻からの短い手紙に従って妻が生まれた故郷、平戸市への旅に出る主人公……。ワゴン車での旅でした。本来なら、妻と一緒に出かける旅だったはずなのに、ひとり旅となります。でも、旅のいろんな場面で生前の妻とかわした言葉や思い出がスクリーンに出てきて、二人が一緒に旅のようにも見えました。小さな花瓶に入れられた赤紫の花も、主人公とずっと一緒でした。

人は愛しい人を亡くした後、思い出の場所に立ったり、思い出の品と出合ったりすると、一気に過去にタイムスリップすることがあります。主人公が天空の城、兵庫県朝来市の竹田城に立ち寄る場面もそうでした。童謡歌手だった妻が「星めぐりの歌」（作詞は宮澤賢治）をさみしく歌う姿を思い浮かべ、歌い終わった後で「私、これで歌をやめようと思うの」と言った言葉も思い出す。こうしたことは大切な家族の一員や友人などを亡くした人なら一度や二度は体験しているのではないだろうか。この場面では、雲の中に浮かぶ美しい山城の風景がじつに見事でした。

映画を見て「短い言葉」の魅力あらためて感じました。主人公の妻がNPO法人に託した遺書は二通。そのひとつは、「あなたへ。私の遺骨は……」で、妻の故郷の郵便局で受け取ったもう一通は、「さようなら」としか書いてない極めて短い手紙でした。でも短いゆえに心に余韻が残ります。想いが広がっていきます。そして山頭火の句も良かった。「分け入っても分け入っても青い山」「ひとり山越えてまた山」、旅の中で作った句なのでしょうが、人の生き方、生き様を短く表現しているように思えました。

「旅」と「放浪」の違いは「目的があるかないか」、そして「帰るところがあるかないか」だと、映画の中で車上荒らしの旅人役を演じたビートたけしが言っています。私は一度でいいからゆつくりと「放浪の旅」をしてみたい。「放浪」と「旅」の良さをどちらも味わってみたいのです。主人公が妻の故郷、平戸の街中をぶらぶら歩いているとき、閉館した写真館の出窓に飾られっぱなしとなっている何枚かの写真の中に妻の少女時代の写真を発見する。ああいう感動を味わってみたいのです。もちろん、旅の中には天空の城、竹田城址に登ってみるとか、舟に乗ってばかどかい夕陽を見るときも入れて。

私の妻は来春、定年退職を迎えます。

市民団体からも「もっと広く議論していくべき」との声が 総合事務所産業建設グループ集約問題で市民団体が学習会

見えてこない。私らの地域協議会でも意見書や要望書を出していきたいと思っている」

「住民自治と合併問題を考える会」の佐藤忠治代表から、総合事務所産業建設グループの集約の問題で学習会をやるので参加して、意見交換させてもらえないかと要請があったので、9日、出かけてきました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	9月5日（水）	9月12日（水）
上越南消防署	0.033	0.040
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.047	0.050
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.056	0.043

集まったのはこの会の会員さんなど10数人。このうち、この会に初めて参加した人が4人ほどおられました。約2時間半の勉強会、意見交換は議会で市側と論戦をやっていくうえで役に立つものでした。

この日の会の中では、「ガス・水道局の再編をやった時から今回の事態はある程度予想できた。ただ、行政側の資料を見ると、集約の理由などがどんどん変わっていく気がしてならない」「命令系統の問題一つとってみても、練りに練った案とは思えない」「この案をつくった人は大規模災害の発生を考えていない。中小規模の災害しか頭にない。災害担当職員でなくても、いざという時に判断でき、役に立つ職員をどうつくるかが重要だ」「全庁的な再編をどうしていくか全体像が

「今回の集約は行政側が思いつきで出しているわけではない。産業建設グループでうまくいけば、次は他のグループの集約、そしてその次は総合事務所の再編とつながっていくのではないかと。行政側は『改革』と称して徹底的な合理化をねらっていると見るべきだ」などといった意見が相次ぎました。

同会では、行政側が提案している内容は不完全なところが多々ある、来年4月から試行という計画には無理がある、もっと市民と広く議論していくべきだ、市民が主体となって、開かれた場所での議論も必要だ、と

いったまじめをしてみました。（写真は大島区青空市場で購入したメロン）

